【表紙】
二宮尊徳　全四巻

【表紙　裏】

【1頁】
（一六ミリ）
二宮尊徳
全四巻　四一一米

台湾総督府
P第三八一号
検閲済
有効期間
自昭和一七年三月二十四日
至昭和二〇年三月二十三日

障害ナシ

【2頁】

【3頁】
梗概
寛政三年八月五日の暴風雨で相模国の酒匂川が
大洪水となって東栖山村の二宮利右ヱ門の田地一町
六反歩が荒され河原となり三年がかりで是れ再
興したが又、大水で流されて其為利右ヱ門は労
苦の飾り病床に就く．
妻のおよし．長男金次郎はその為色々と苦労を
する．村の医者村田道仙は薬代も取らず何くれと
なく面倒を見てやり金次郎に労問を教へる．
金次郎は良く働き、良く労び、父母に孝養を尽す．
父利右ヱ門は看病の甲斐なく遂に他界する．

【4頁】
その後金次郎は母と共に貧苦と闘ふ．母およし

の父即ち金次郎の祖父・曽我村の川久保太兵衛
が亡くなったので金次郎は母と共に葬式に行った
が貧しい為、服装が悪く紋服もない為め葬式に立
合はして貰へず親類交りもして貰へず散々恥辱
を典へられる.
およしの母おふじは其の事を知って二人を庇ふ.
其の後およしは夫れが原因で遂に病気となる.
死の床にて金次郎を枕元に呼び、二宮家再興
を呉々も頼んで黄泉の人となる.
金次郎は母の言葉を肝に銘じ村田道仙の教

【5頁】
励に独立独歩二宮家再興の決意をして雄々
しく発憤する.
終

【6頁】

【7頁】
第一巻
T1. 合同映画社作品
T2. 二宮尊徳　立志の巻
T3. 脚本　演出　中川紫郎
製作　寺浦潔
T4. 村田道仙　草間実
二宮金次郎　花岡進
二宮利右ヱ門　天野栄一
二宮およし　生野初子

【8頁】
川久保おふじ　伊藤壽栄子
川久保富七　小松武夫
間姓蜂次郎　嵐亀三郎
川久保左蔵　明石君夫
T5. 寛政三年八月十五日
T6. 相模国酒匂川は再度暴風雨のため

大洪水となり東栖山村は河原とな
って了った.

【９頁】

Ｔ７．〃あっ苦るしい〃

Ｔ８．〃ああお父様お父様しっかりして下さい〃

Ｔ９．〃お医者の道仙先生だ〃

Ｔ１０．〃先生　先生〃

Ｔ１１．〃おお金次郎ぢゃないか　どうしたのか〃

Ｔ１２．〃あすこで　お父さんが〃

Ｔ１３．〃なに　お父さんが　よし〃

Ｔ１４．〃利右ヱ門さん　しっかりなさい寛政三

【１０頁】

年の大水で流された田地一丁六反
を三年がかりで漸々元々通りにし
たのに・・・〃

Ｔ１５．〃又今度の大水の為　無駄になったの
でその疲れが出たのだらう〃

Ｔ１６．〃今日の気分はどうぢゃな〃

Ｔ１７．〃ハイお蔭で段々と良くなる一方で御
座います〃

Ｔ１８．〃大変な事になりましたな．今古未曽有

【１１頁】

の大水と利右ヱ門様の大病で二宮家は
大災難ぢゃ〃

Ｔ１９．〃私もどうなる事かと心配致しました〃

Ｔ２０．〃段々と良くなって結構ぢゃこれから先
も用心さっしゃれや〃

Ｔ２１．〃有難う存じます〃

Ｔ２２．〃毎日診察に来て頂きますのに未ダに
御礼も致しませず・・・・・〃

Ｔ２３．〃何のくそんな四角張った事は言はぬ

【１２頁】

事ぢゃ医は仁衛といふからな　心配さう

しやるな〃
T２４．〃有難う御座います〃
T２５．〃おお蜂次郎や御親切に見舞うて下
さる道仙様　それに只の一度も謝礼を
求められた事がない〃
T２６．〃丸で神様か仏様のようなお方ぢゃ此の
まますてゝ置くと云ふ事は私の心として
すまぬ〃

【１３頁】
T２７．〃といってこの始末ではなあ困った事ぢゃ〃
T２８．〃本家の庄屋萬兵衛様は大金持　またお
よし様の実家川久保家も近隣に聞えた
大金持・・・・・・〃
T２９．〃御相談に行かれたら何とか出来ませうが〃
T３０．〃二宮家も零落はしてゐますが曽我兄弟
の後裔　親類縁者の厄介になるのは
いやぢゃ〃
T３１．〃ときに無理な御たのみぢゃがまだ田地

【１４頁】
の方が一畝歩ばかり残って居りますが〃
T３２．〃あれを低當にして金の工面をして頂きた
いんじゃ〃
T３３．〃よろしうございます　どこかで頼んでみ
ませう〃
T３４．〃ありがたう御座います〃
第一巻　終り

第二巻

【１５頁】
T１．〃お父さんが病気で来られませんから
どうか此の草履をはいて下さい〃
T２．〃小父さんもこの草履をはいて下さい〃
T３．〃有難う　有難う〃

T４．〝これは奥様で御座いますか〟
T５．〝まあ利右ヱ門さん元気になられてよう
御座いました〟
T６．　ようよう歩けるやうになりました
先生は・・・・・・・

【１６頁】
T７．〝先生様今日は身体のよくなりました
のも先生様のお陰で御座います〟
T８．〝これはほんの薬代で御座いますがお受
け下さいませ〟
T９．〝あの・・・・・・・・これだけでは〟
T１０．〝黙らっしゃい道仙は今でこそ此の村で
医者をしてゐるが昔は江戸の佐藤一斉
先生の許で医学を修めた者〟
T１１．〝其の方のやうな境遇の者から謝礼を受

【１７頁】
けよう薬を盛ったのではない〟
T１２．〝一日も早くによくなって稼業に精出す
事が出来る様にと思へばこそ及ばず
ながら骨を折って居るのぢゃ〟
T１３．〝お前さんの家にこんな金がある訳がない
定めて無理算段をして来た金であらう〟
T１４．〝田地を売って是から先どうして妻子を
養って行くのだ此の金を持って帰へら
っしゃい〟

【１８頁】
T１５．〝何を御礼申上げませうやら有難うは存
じまするがしかし此の金をこのまま持
って帰へりましては義理がすみません〟
T１６．〝さすがは「栖山の善人」と人々に云はれる
だけあって義理堅いには感心なものじゃ〟
T１７．〝先生様お別れに参りました田地に流さ
れ借金に追はれるばかり此村に居ら

れませんので娘を連れて江戸に参り
ます〃

【１９頁】

Ｔ１８．〃そうか・・・・・お達者で御気嫌よく暮して下
さい〃

Ｔ１９．〃わしが日頃心痛して居るのは此の村の大
洪水の被害ぢゃ東栖山村は荒廃しては仕
舞って見るかげもない〃

Ｔ２０．〃此のままにすれば村全体が滅亡するより
外にないこれには一人偉い人が出ねばなら
ない〃

Ｔ２１．〃村人を指導する人が入用ぢゃ金次郎に
其の指導者になるやよな学門を教へ

【２０頁】

てあげたい〃

Ｔ２２．〃では教へて下さいますか〃

Ｔ２３．〃わしの方の学門は王陽明と云ふ人の知
行一致の学だ〃

Ｔ２４．〃昔近江の中江藤樹といふ先生や熊沢蕃
山先生等の説を受け継ぐものだ〃

Ｔ２５．〃此の知行一致の指導者が出ねば到底
此の村の復興はおぼつかないと思ふ
金次郎お前は其決心があるか〃

【２１頁】

Ｔ２６．〃知行一致と云ふ事ぢゃが今迄の学問とい
へば学問をして物事の道理を知ってから
後実行に移るのを方法としてゐた・・・・・・・〃

Ｔ２７．それであるから学問に熱中するばかり
で実際に実行する迄到らず学問のた
めに学問をすると云ふ弊害が起きてゐた・・・・・〃

Ｔ２８．〃それではならない人間は元来知性といふ
ものを持ってゐるのであるから・・・・・・・・・〃

Ｔ２９．〃実行しつつ学問をすれば自づと其学問が

実行と並行して行って効果が早いこれが

【２２頁】

即ち知行一致の学問ぢゃ〃

Ｔ３０．墓標　釋利光信士

Ｔ３１．墓標　俗名二宮利右衛門之墓

Ｔ３２．墓標　寛政十二年九月二十六日没

【２３頁】

Ｔ３２．〃一時は良くなった利右ヱ門様が俄かに亡くなったので二宮家も困ったものじゃ〃

第二巻　終

第三巻

Ｔ１．遂に弟富次郎は叔父甚左ヱ門に引取られる事になった

Ｔ２．〃小供の事は呉々もお願ひします〃

Ｔ３．〃お母様〃

【２４頁】

Ｔ４．〃金次郎お前まだ起きてゐたのか〃

Ｔ５．〃お母様金次郎に頼みがあります〃

Ｔ６．〃どうか富次郎を里子から帰し自宅に於いて下さいませんか〃

Ｔ７．〃その代り明日からは一刻も早く起き夜も今迄より一と刻おそく寝て富次郎のために働きます〃

Ｔ８．〃貧しくとも親子四人力を合せこの苦しい中を切抜けて行きませうどうか富次

【２５頁】

郎を戻してください〃

Ｔ９．〃そんなら富次郎を戻しても良いのかへ〃

Ｔ１０．〃夜が明けたら私が迎へに行きます〃

Ｔ１１．〃いやそれではお母様が直ぐに行って来ます〃

Ｔ１２．〃おぢさんくあすこだよく〃

Ｔ１３．〝もし二宮の奥様〟
Ｔ１４．〝曽我別村の吾作さんぢゃないか〟
Ｔ１５．〝あの実はあなたのお父様がお亡くなられ

【２６頁】

てお知らせに参りました〟
Ｔ１６．〝金次郎―おぢい様が亡くなられたんだよ〟
Ｔ１７．〝それではお葬式に行かなければなりません〟
Ｔ１８．〝此処では話は出来ませんどうぞ自宅まで
御一緒に・・・・・・〟
Ｔ１９．〝富七―お前何故もっと早く知らせて呉
れなかったのですか〟
Ｔ２０．〝姉様ももっと早く来なかったのです〟

【２７頁】

Ｔ２１．〝でもお前知らせたのは今朝ではないかそ
れはあんまりです〟
Ｔ２２．〝そうだ　一寸取込んでたものだから〟
Ｔ２３．〝お母様〟
Ｔ２４．〝さあ帰へりませう〟
Ｔ２５．〝お嬢さま〟
Ｔ２６．〝大そうおやつれになりましたなあ御老母
が御帰りをお待ちで御座います私と一
緒に参りませう〟

【２８頁】

第三巻　終

第四巻

Ｔ１．〝皆様　わざわざ御会葬にお出で下さい
まして有難う存じます〟
Ｔ２．〝見たところ姉娘のおよしは見えぬが知ら
せたか？〟
Ｔ３．〝お母様姉さんは来て居ります〟
Ｔ４．〝どうして此席へ連れて来ないのじゃ？〟

【２９頁】
Ｔ５．〃ここでは話は出来ませんこっちへ来て下さい〃
Ｔ６．〃連れて来られぬ訳といふのは・・・・・・・〃
Ｔ７．〃お母さん姉さんは着物が悪いので勝手に先に
飯をたべさせて待たしてあるのです〃
Ｔ８．〃えッ！およしは来てるのか儂がよんで来ます〃
Ｔ９．〃お母様〃
Ｔ１０．〃久しう見ぬうちにやつれたな利右ヱ門が
死なれてからさぞ苦労をした事であらう〃

【３０頁】
Ｔ１１．〃あの・・・・・貧乏ひまなしでよう参りませんでした〃
Ｔ１２．〃そうぢゃあるまい気兼して来なかったのであ
らう〃
Ｔ１３．〃いいえそんな事・・・・・・〃
Ｔ１４．〃親ぢゃもの儂はお前の心はよく知ってゐる
さあみんな一緒に貞へ行こう・・・・・・・〃
Ｔ１５．〃お母さん最前もあれ程云ったぢゃないか
姉様や金次郎を座敷へ通す事だけはやめて下さい〃
Ｔ１６．〃親がする事ぢゃ放って置いて呉れ姉のおよし

【３１頁】
は貧乏して居っても立派なものじゃ〃
Ｔ１７．〃又金次郎とても立派な子供じゃ貧乏しても只
一度も無心に来ず二宮家のために一生懸命に働
いてゐるのぢゃ〃
Ｔ１８．〃おばあさま待って下さい〃
Ｔ１９．〃お母様待って下さい私のために親類にもめ
事が起っては困ります〃
Ｔ２０．〃おばあ様待って下さいお母様が可哀相です
どうか納戸の方へ行って下さい〃

【３２頁】
Ｔ２１．〃孝行な事を云ふ子ぢゃ〃
Ｔ２２．〃おかアさますみませんく〃
Ｔ２３．〃何と詫びる事があらう親が両手をついて

謝らねばならぬ〃

Ｔ２４．〃どうか二宮家を石に齧り付いても再興してお呉れ〃

Ｔ２５．〃此の金お前が来たらやらうと思って貯めた二十両此の金で売った田地を取戻せ〃

Ｔ２６．〃その御志は有難うは御座いますがこの金は

【３３頁】

どうぞ納めて置いて下さいませ〃

Ｔ２７．〃金次郎を励まして一生懸命働いて二宮を再興させて見せます〃

Ｔ２８．〃さうかく金次郎お前もこれからお母様の言ふ事をよくきくのですよ〃

Ｔ２９．〃キットお母様を安心させて見せます〃

Ｔ３０．〃永居しては何かと御迷惑もかかりませう是れで失礼いたします〃

Ｔ３１．〃おばあ様　左様なら！〃

【３４頁】

Ｔ３２．〃貧乏程つらいものはない父の葬式にも交合はせて貰へない〃

Ｔ３３．〃金次郎―どうか石に齧りついても二宮家を起してお呉れお母様にはこれが最後のお願ひです〃

Ｔ３４．〃お母様！気を確かに・・・・・・・御安心下さい！〃

Ｔ３５．〃金次郎や土を生かせ！大地を尊べ！お母様の遺言通り独立独歩で貧苦と闘ひ・・・・・・・・〃

【３５頁】

Ｔ３６．〃自然と闘ってそれを征服せよ！そして農村を赦はればならぬ〃

Ｔ３７．〃はいよく解りました〃

Ｔ３８．〃終〃

【データ採録者…天野知行】【校正…森田健嗣】